

コンチェルト AB 部門

コンチェルト AB 部門は、かなりレベルが高かったと思いました。みなさんしっかりとしたテクニックをお持ちで、演奏の内容もうまくいっていたものが多かったです。現在の音楽的成長過程においては、演奏上の表現力をより豊かにすること、その作品を解釈する上での個々の要素により変化をもたせることに主に焦点を当てるのがよいと思います。テクニック上の制約がなければ、より美しく価値のある音楽を追求することができるでしょう。

各フレーズをいかに伸びやかに奏でられるかが、この部門のキーポイントだったように思います。また、ゆったりした部分がやや冗漫に聴こえました。音楽的な流れの方向性をしっかり見据えることが大切です。

- ・大きなフレーズを感じて弾きましょう。フレーズの始まり、山（盛り上がる場所）目的地（フレーズが行き着く先）を明確にすると良いでしょう。
- ・それぞれの部分のキャラクターをとらえて、その違いを表現しましょう。
- ・オーケストラパートとの掛け合いを楽しんで弾きましょう。

コロナ禍の中で、今年は映像審査になってしまいましたが、演奏動画を録画する作業は solo でも大変なことです。ましてやコンチェルトの部での作業はどれほど大変な事だったのでしょうか、頭が下がる思いです。伴奏者、2台ピアノのある会場の手配にご尽力頂いたお陰で、こうして聴かせて頂いております。ご家族、指導者の皆様、伴奏者の皆様に感謝申し上げます。アンサンブルの審査は楽しく、審査と言うより楽しく聴かせて頂きました。全体のレベルは高く、特にコンチェルト AA のレベルは高く、ショパニストコンチェルト A 部門もこれほどお弾きになるんだと頼もしく聴かせて頂きました。コンチェルト I は経験も少ないので未だ幼い所もあり、もう少しアンサンブルして欲しいと思うところもありましたが、こうしてアンサンブルを楽しまれることでさらに豊かな音楽を楽しまれることでしょう。

- ・オケのパートと協調性をもって演奏しつつもソリストとしての個性がよりアピールできると良いと思いました。
- ・より飛ぶ音や、音色の変化が明確に弾き分けできるタッチの吟味を。
- ・曲の構成をしっかりと組み立て、対比を効かす。
- ・いろんなジャンルの曲があり、楽しく聞きました。
- ・伴奏者との音量のバランス、テンポ、フレーズ感が大事。
- ・ソリストのメロディラインや音色の響かせ方、音楽の流れや盛り上げ方をもっと伝えていただきたいです。
- ・コンチェルトは究極のアンサンブルなので多く方に挑戦して欲しいなと思います。
- ・本来ならオーケストラの部分をピアノで伴奏するため、バランスには特に気をつけましょう。違う楽器とならバランス良く聴こえても、ピアノ同士ですと同じ音質のため音がぶつかってしまい、オーケストラの伴奏で演奏するよりバランスが悪くなりやすいです。
- ・体幹や手首の支えをしっかりと意識して、腕や体の重みが指先にしっかりかかる様に、重心の使い方を研究してください。音に厚みが出てきます。